

独立行政法人福祉医療機構 助成事業

令和4年度 報告書

「食」を通じた 循環型地域システム の構築



認定特定非営利活動法人
フードバンク信州



独立行政法人福祉医療機構 助成事業
—— 「食」を通じた循環型地域システムの構築 ——
令和4年度 報告書

目次

	page
はじめに	1
I 2022年度フードバンク信州の活動	
目標	2
事業の柱	2
フードバンク活動の広域ネットワーク体制の整備構想	3
II 事業の実績	
1. 食料の受け入れと提供	
(1) 食料の受け入れ	4
(2) 食料の提供	7
2. コロナ対応子ども応援プロジェクト	8
III 資料集	
◎ 企業のフードバンク活動についてのアンケート調査	12
◎ Facebookでの情報発信	16

はじめに

まだ安全に食べられるにもかかわらず処分されてしまう食料を、企業や個人から寄贈を受け、生活困窮者等の支援を必要としている人に適切に提供するフードバンク活動を地域の仕組みとして確立させ、共助社会の構築をめざすフードバンク信州が設立されて満7年が経過しました。

この間、2020年から感染者の増減を繰り返しながら今なお継続している新型コロナ禍は、私たちの社会生活、経済活動等の多方面にわたり大きな影響を与えました。長期化する新型コロナの影響は生活困窮者等の生活をさらに困難なものとし、とりわけ子育て家庭からは食料支援の要望が多数寄せられました。このような要望に対し、フードバンク信州は、2020年7月から長野県内全域を対象に「コロナ緊急対応子ども応援プロジェクト」を実施し、2022年度も「コロナに負けない子ども応援プロジェクト」として継続してきました。

しかし、最近の食料品を含めた広範囲に及ぶ物価の急上昇も加わり、食料支援を求める声はフードバンク信州として対応できる限度を超えるまでに増大しています。フードバンク信州では、食料寄贈の円滑化を図り、食料支援のニーズと効果的にマッチングするため「食の循環システム」による支えあい型地域の構築をめざしてきましたが、現在の窮状は公的支援の強化も必要な段階にあり、それぞれが本来の役割を果たすことにより生活困窮者等を支える社会が求められています。

ひっ迫する食料支援の現状にあって、食料を提供いただいた協力企業をはじめ、寄附等多方面にわたる御支援をいただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、これからも変わらぬご協力をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

認定特定非営利活動法人
フードバンク信州
理事長 佐藤 豊





I 2022年度フードバンク信州の活動

【目標】

「食」を通じた循環型地域システムの構築

2022年度は新型コロナの感染が3年目を迎え、長引くコロナ禍の影響により、貧困と食をめぐる問題が顕在化、深刻化するなかで、食料支援を中心とした困窮者の緊急ニーズが増加した。緊急的な食料支援ニーズに対応するフードバンク活動への期待が高まり、食料の寄贈やフードドライブの開催等で活動に賛同、協力の気運が広がってきた。

フードバンク信州は、長引くコロナ禍により、貧困ニーズが多様化していること、また支援につながりにくいグレーゾーンの貧困が増加してきた状況を踏まえ、多様なネットワークにより食料の収集と必要な人に届ける地域のしくみづくりを目指した。

2022年度後半は、コロナ禍に加えて燃料費をはじめとする物価高騰の波が押し寄せ、困窮課題の拡大が進んだ。フードバンク信州はこのような状況に対応し、行政や社会福祉協議会、企業や地域団体等との連携強化により、社会全体で食の循環による支え合いの地域づくりを進める活動の推進を図ることを目標に事業に取り組んだ。

【事業の柱】

1 食料循環の広域圏連携システム体制の構築

○食料循環のマッチングシステムの構築

2021年に設置した「長野県フードバンク活動団体連絡会」との連携により、県内の各地域において食料循環機能を強化し、ニーズに対応した支援が継続的につながるためのシステムの構築をめざした。

連絡会の主催による長野県フードドライブ統一キャンペーンを実施するなど、連絡会の取り組みを通して地域活動と広域連携による活動の広がりが生まれた。

○食料循環の地域拠点との連携・協働活動の推進

長引くコロナ禍と物価高騰の影響による貧困課題の増加に対して県内の市町村社協等において独自でフードバンク活動に取り組む地域が増えてきた。地域拠点における直接支援と広域の食料の需給調整を行う県的団体との協働による活動を推進した。

2 緊急支援活動と継続的支援事業の連携推進

○コロナ対応子ども応援プロジェクト事業の推進

長野県内全域を対象に緊急的貧困状態で支援が届きにくい制度の狭間にある子育て困窮世帯に食料を個別配送する事業を年間を通して実施した。

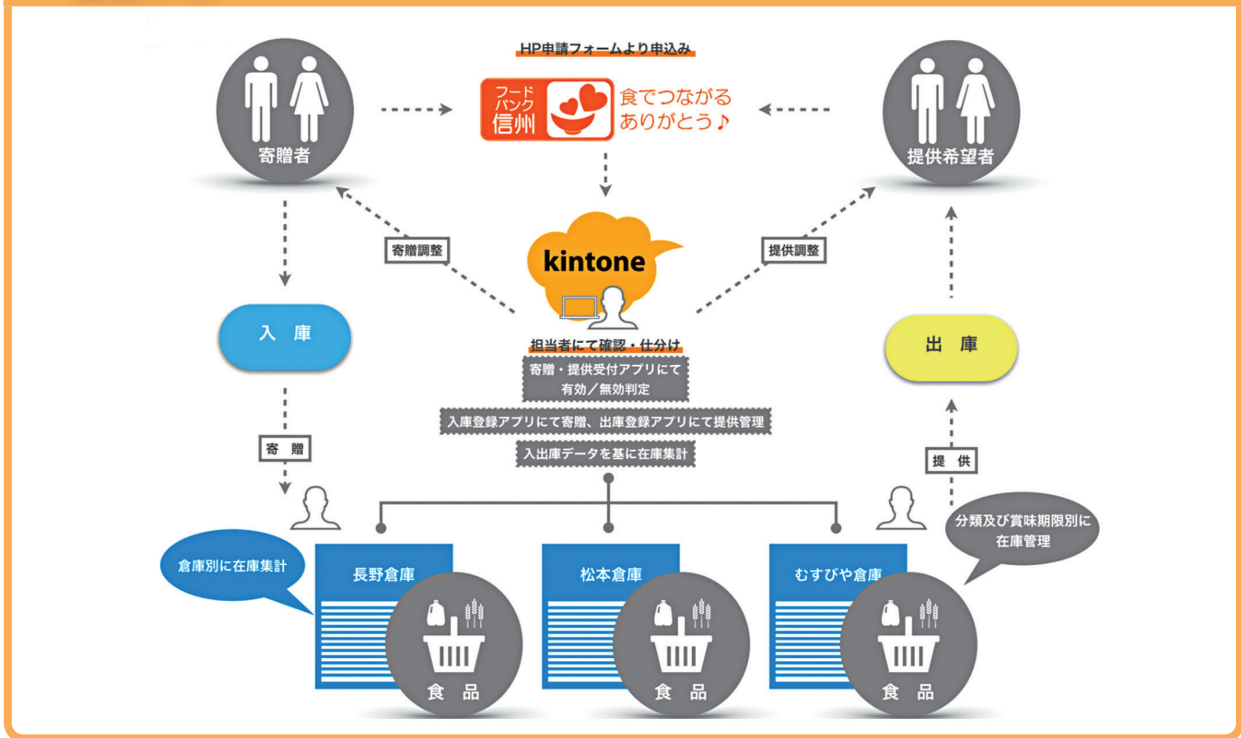
○地域支援機関との緊急ニーズ課題の共有と連携

子ども応援プロジェクトの利用者アンケートから見えてきた子育て家庭の貧困ニーズを整理し、地域の関係機関と情報共有し、緊急支援から継続的支援につなげる方向での取り組みを行った。

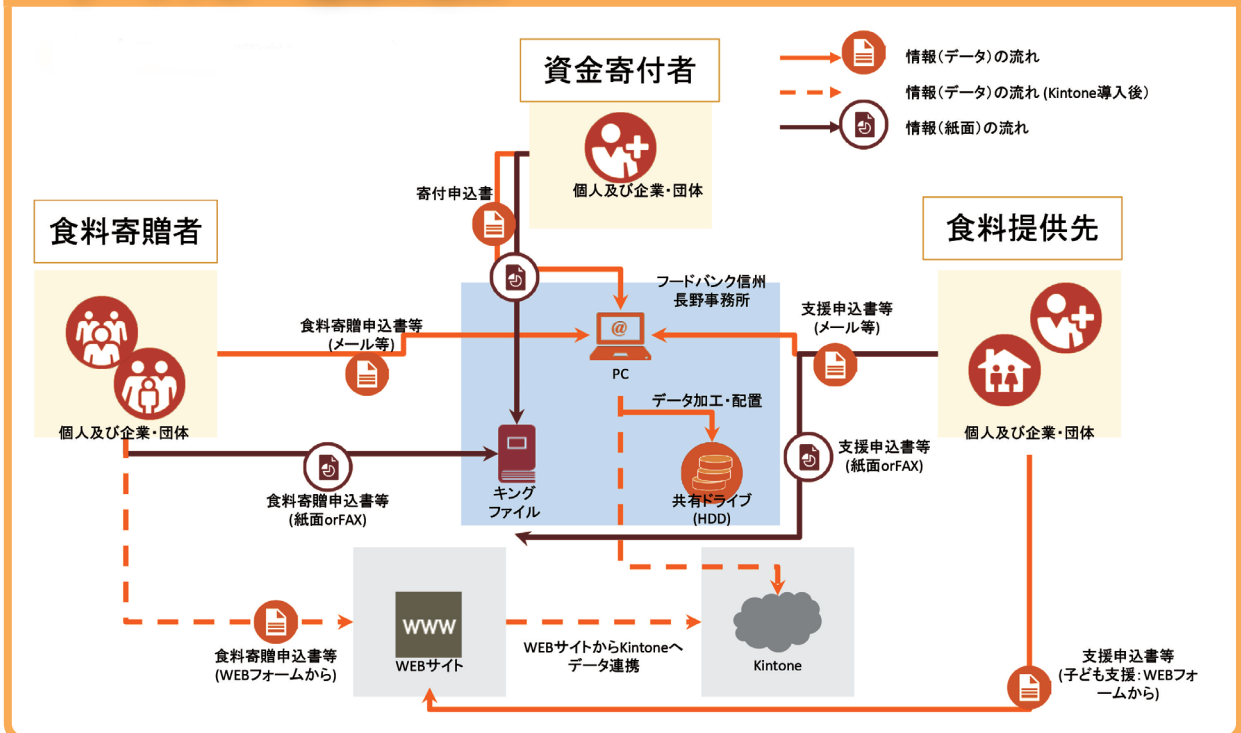
フードバンク活動の広域ネットワーク体制の整備構想

長野県内において、企業等の食品寄贈を推進するシステムがより整備され、地域の支援ネットワークとの連携が進むことにより地域の貧困が軽減されることを目指す

業務フロー



データフロー (情報の流れ)





II 事業の実績

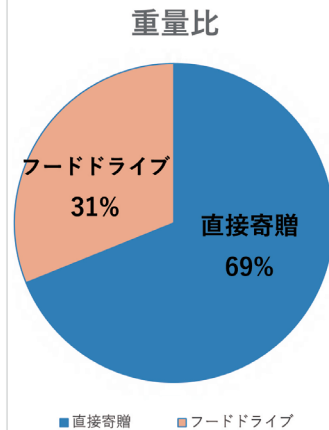
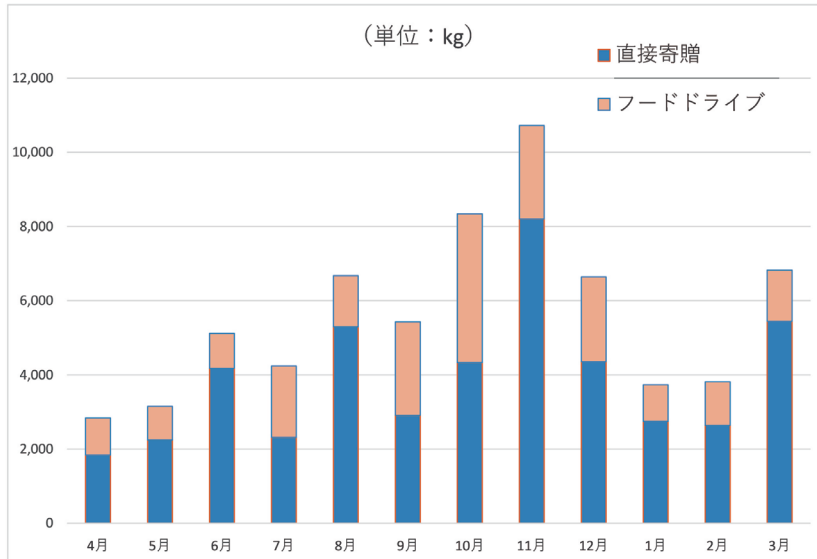
1 食料の受け入れと提供

(1) 食料の受け入れ

〔食料寄贈の実績〕

2022年度 寄贈受入実績 寄贈種類別重量比

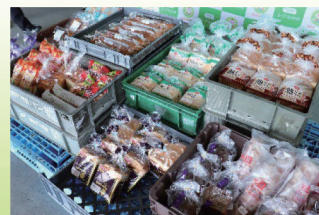
2022年4月1日～2023年3月31日



寄贈の種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	寄贈の種類	年間計
直接寄贈	1,840	2,244	4,176	2,311	5,297	2,913	4,328	8,204	4,358	2,745	2,638	5,444	直接寄贈	46,497kg
フードドライブ	994	906	945	1,927	1,374	2,514	4,013	2,519	2,281	988	1,172	1,375	フードドライブ	21,009kg
合計	2,834	3,150	5,121	4,238	6,671	5,426	8,341	10,723	6,639	3,732	3,810	6,820	合計	67,506kg
前年度実績	3,560	2,723	3,975	4,070	5,668	5,161	10,411	7,074	7,277	5,886	17,406	7,372	前年度実績	80,584kg
比率	79.6%	115.7%	128.8%	104.1%	117.7%	105.1%	80.1%	151.6%	91.2%	63.4%	21.9%	92.5%	比率	83.8%



イベントで開催したフードドライブには、小学生が食品や文具をもって参加してくれました



食品宅配事業者との連携で、余剰のパンを困窮者支援に活用できることになりました

フードバンク信州の食品倉庫には寄贈いただいた食料を保管し、賞味期限内に必要な方に安全にお届けします



宮城県の農家から届けられたお米を困窮世帯の支援団体に提供

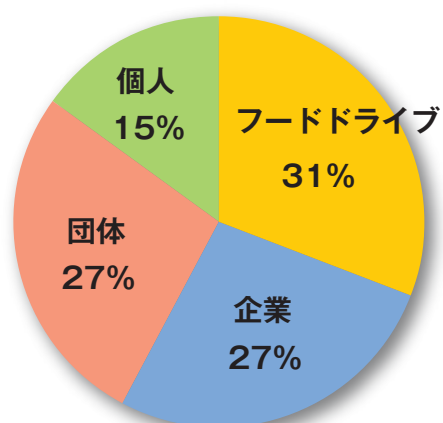
〔寄贈主体別実績〕

寄贈主体		延べ寄贈件数 (件)	寄贈重量 (kg)	重量割合 (%)
直接寄贈	① 企業	162	17,993	26.7
	② 団体	281	18,494	27.4
	③ 個人	705	10,010	14.8
フードドライブ		155	21,009	31.1
計		1,303	67,506	100.0

フードバンク信州本部と地域拠点に直接寄贈された食料は、①企業、②団体、③個人の3区分に分けて集計している。フードドライブの受入は、全体の約3割となっている。

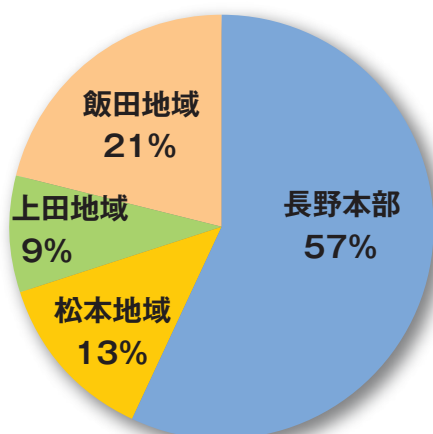
年間の食料の受け入れ量は2021年度より約2割減少しているが、コロナ禍の継続により市町村社会福祉協議会や支援団体に直接寄贈されて各地域の支援ニーズに対応する動きが増加している。長野県全体における食料循環は広がっていると思われる。

寄贈主体別重量比



〔地域拠点別寄贈受入状況〕

地域拠点別受入実績

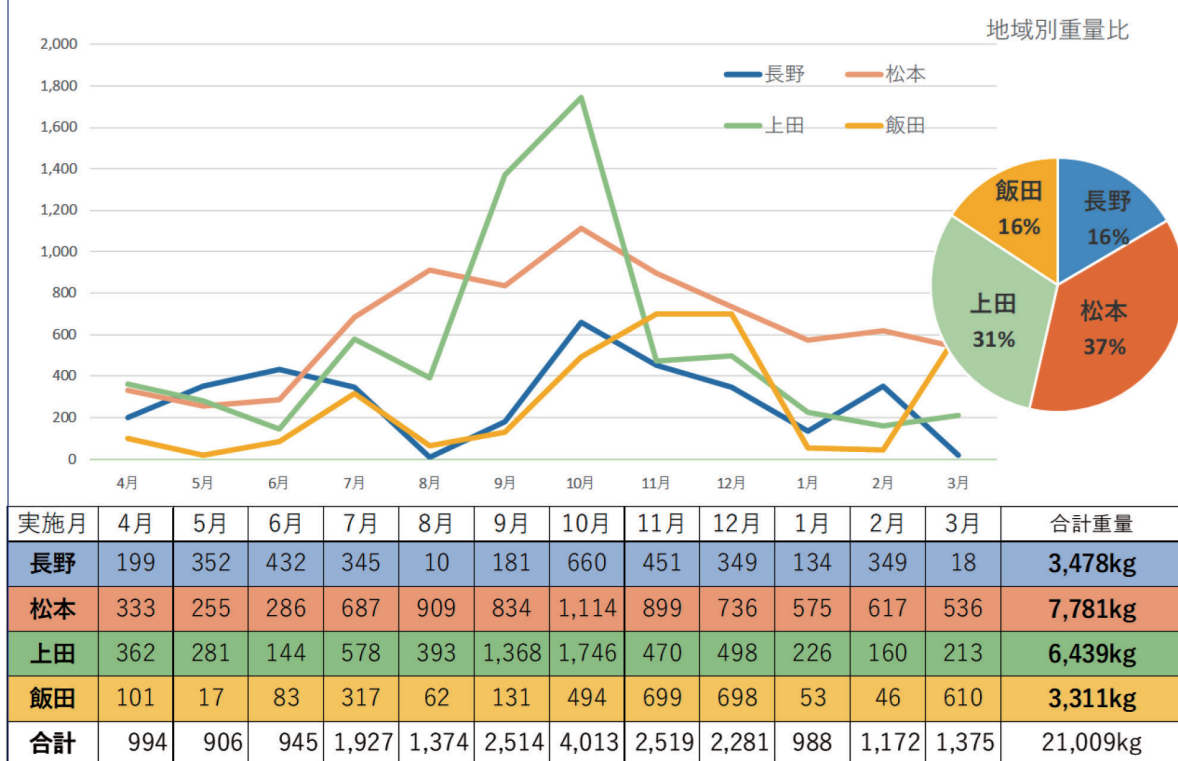


フードバンク信州の県内4拠点別の食料受け入れ量は、長野本部が約6割となり、前年とほぼ同じ割合となったが、実数は2割減少している。物価高騰などの影響で生産量の削減等が影響していると思われる。

地域拠点	寄贈総重量
長野本部	38,339kg
松本地域	8,656kg
上田地域	6,439kg
飯田地域	14,072kg
4拠点合計	67,506kg

〔フードドライブ実施状況〕

2022年度 フードドライブ実績(地域別 重量比)



フードドライブ定期開催地域

地域	開催日	会場	主催・協力団体
長野地域	毎月第2土曜日	コープながの稲里店	フードバンク信州・コープながの
松本地域	毎月第3木曜日	松本市役所東庁舎	フードバンク信州・ワーカーズコープ松本事業所 松本市 (共催)
上田地域	毎月第1土曜日	ひとまちげんき・健康プラザうえだ(上田市)	上田市社会福祉協議会・上田市 (共催)
飯田地域	毎月第2火曜日	イオン飯田店	南信州地域子ども応援プラットフォーム 地球環境高校飯田学習塾・イオン飯田店

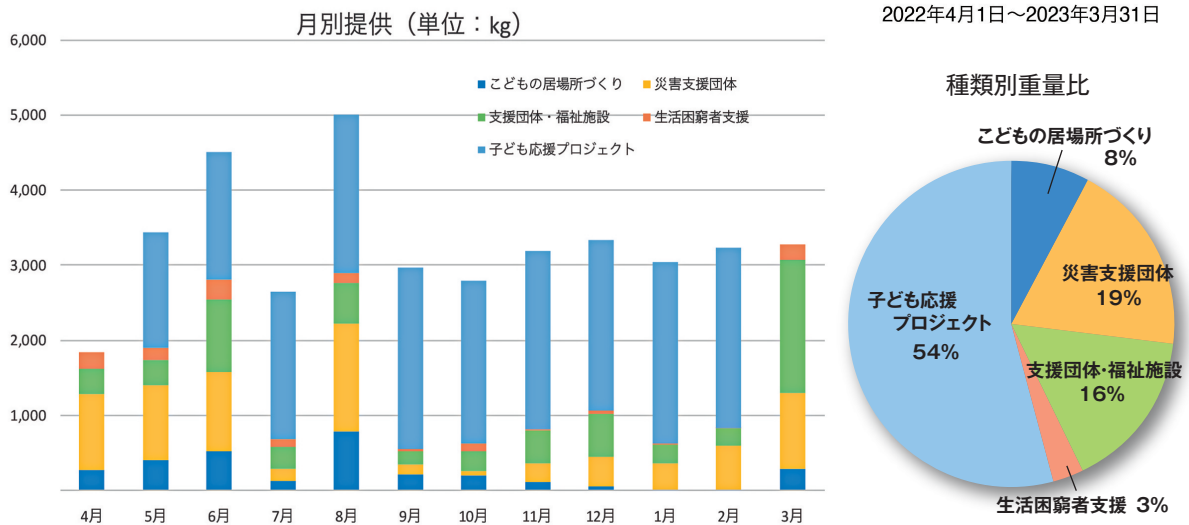
フードドライブで収集した食品でフードバンク信州に寄贈された量は、寄贈食料全体の31%で21トンとなった。そのうち長野、松本、上田、飯田の4拠点の受入状況は上の表の通りであった。フードドライブは、開催日を決めて定例で開催する定期開催と、企業や団体、地域、学校などが企画して開催するイベント型の2つの方法があり、2022年度の21トンのうち6割が定例開催、4割がイベント開催分となっている。

なお、長野県フードバンク活動団体連絡会では「県内フードドライブ統一キャンペーン」を3回開催し、総重量212トンが集まりそれぞれの地域で困窮者支援に活用された。県内の参加団体は延べ219団体なり、フードドライブ開催の動きは県内の各地域に広がった。

(2) 食料の提供

〔提供実績〕

2022年度 提供実績 提供種類別重量比 [長野本部]



提供の種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	提供の種類	年間計
子どもの居場所づくり	279	415	531	135	785	220	202	112	50		20	296	子どもの居場所づくり	3,042kg
災害支援団体	1,004	982	1,044	156	1,433	126	57	259	399	361	577	1,011	災害支援団体	7,411kg
支援団体・福祉施設	338	349	969	301	541	187	273	427	568	249	229	1,768	支援団体・福祉施設	6,200kg
生活困窮者支援	215	150	265	96	132	21	97	18	49	17	4	200	生活困窮者支援	1,265kg
子ども応援プロジェクト		1,543	1,700	1,964	2,119	2,412	2,170	2,380	2,265	2,417	2,397		子ども応援プロジェクト	21,368kg
合計	1,837	3,440	4,509	2,652	5,010	2,965	2,799	3,195	3,331	3,046	3,227		合計	39,286kg

フードバンク信州本部が受け入れた食料の支援先は、上記の表のとおりとなった。

支援食料の提供先の主な内容は次の通り

○「子ども応援プロジェクト」

コロナ禍の困窮ニーズの増加に対応して取り組んだ子育て世帯を応援する緊急プロジェクトは3年継続して実施することになった。年間食料支援の54%を緊急プロジェクトの支援にあて、全県で延べ2,670件の世帯に食料を届けた。

○「子どもの居場所づくり支援」

コロナ禍が長引く中で、子どもカフェや子ども食堂などの開催が減っていたが、3年目を迎えウィズコロナに対応し、会場開催が復活してきたため、開催支援のため食料提供を行った。

○「困窮者支援団体・福祉施設等への提供」

困窮者支援を行っている民間支援団体や市町村社会福祉協議会などの活動についてもコロナ禍の影響で食料支援ニーズが高まり、28団体に対して食料提供を行った。

○「生活困窮者支援」

長野県内の「まいさぼ」（生活・就労支援センター）の相談者で食料支援を必要としている世帯に対して長野県社会福祉協議会と長野市社会事業協会が行う食料支援事業と連携し支援を行った。

2 コロナ対応子ども応援プロジェクト

◆コロナ対応緊急子ども応援プロジェクト

新型コロナの感染拡大に伴う新たな緊急的貧困課題に対し、制度の狭間で支援につながっていない子育て世帯への食料支援を2020年7月から2023年2月まで3年間実施した。

- ・対象：コロナ禍で生活が急激に逼迫した小学生のいる世帯
- ・活動範囲：長野県全域（制度につながりにくい層を想定）
- ・支援方法：Webで個人が直接エントリーし、FB信州から直接宅配で個別配送
- ・支援回数：2か月に1回募集（その都度申込）

（実績）

2020年度 延べ 1,076件 送付重量 8.9トン
 2021年度 延べ 2,335件 送付重量 19.3トン
 2022年度 延べ 2,670件 送付重量 21.4トン



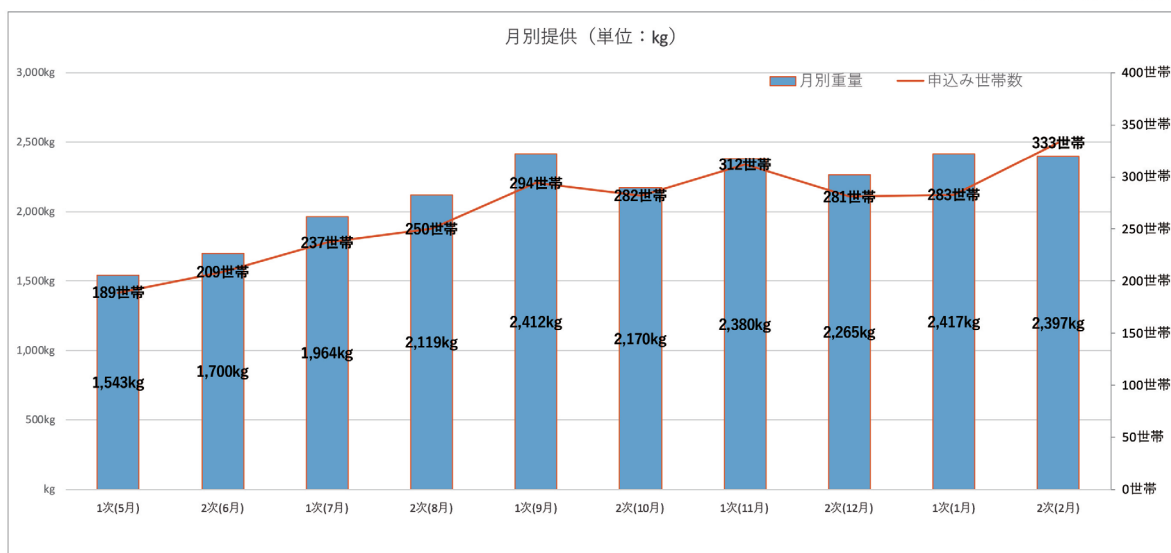
※ 子ども応援プロジェクトで見えてきた課題

- ・貧困層が変わった
 これまでの貧困層でなかった世帯の困窮化
- ・緊急的な食料ニーズに対応する仕組みがない
 民間の食料循環の仕組みが必要

〔子ども応援プロジェクト実績〕

2022年度 子ども応援プロジェクト 提供実績 月別重量・世帯数推移

2022年4月1日～2023年3月31日

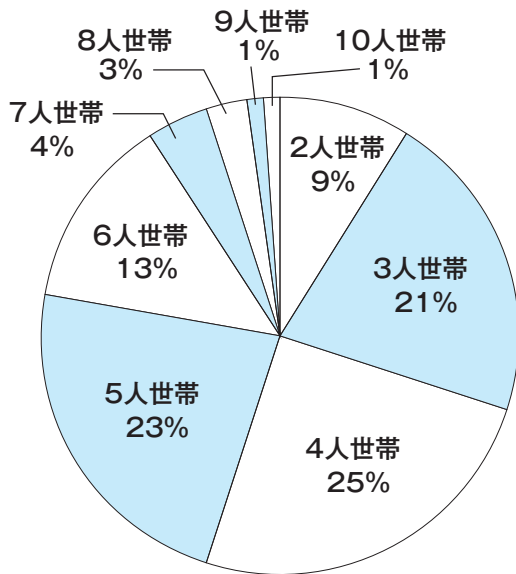


第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		年間計
1次(5月)	2次(6月)	1次(7月)	2次(8月)	1次(9月)	2次(10月)	1次(11月)	2次(12月)	1次(1月)	2次(2月)	
1,543kg	1,700kg	1,964kg	2,119kg	2,412kg	2,170kg	2,380kg	2,265kg	2,417kg	2,397kg	
189世帯	209世帯	237世帯	250世帯	294世帯	282世帯	312世帯	281世帯	283世帯	333世帯	2,670世帯

〔子ども応援プロジェクト実績〕

申込世帯数

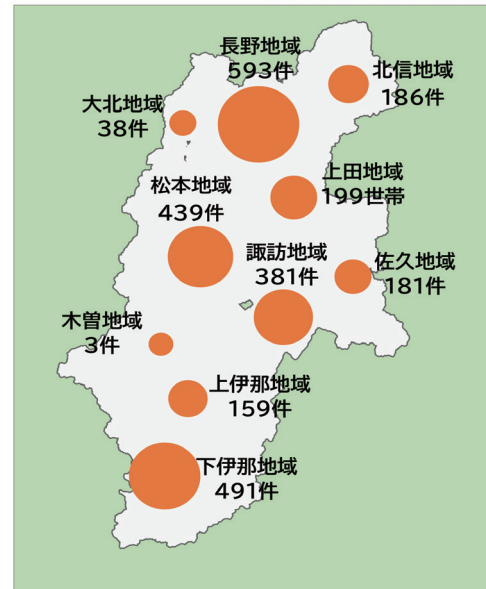
(総数 2,670世帯)



地域別申込件数

(市町村数 55)

2022年4月1日～2023年3月31日



〔子ども応援プロジェクト利用者のアンケート〕

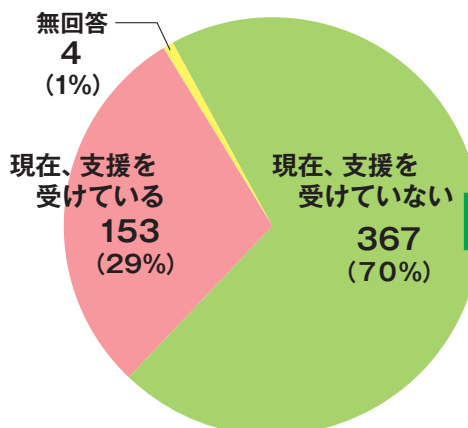
アンケート

公的支援の利用状況と希望について

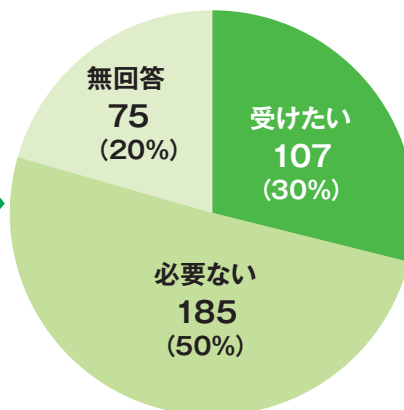
市町村や社会福祉協議会等の日常的な支援について、「現在何らかの支援を受けているか」との問いに対して、回答状況は下記の通りとなった。

回答者のうち、「公的支援を受けている」世帯は29%にとどまり、「現在支援を受けていない」との回答は70%となった。受けていないとの回答者のうち、「今後支援を受けたい」との回答者は29%、「支援は必要ない」との回答者は50%となった。コロナ禍や物価高騰による生活変化で突然の困窮状態に制度そのものを知らない世帯も多いと思われる。ウィズコロナの中で緊急的支援から継続的な社会的支援にどうつなげていくかが今後の課題といえる。

公的支援の利用状況



支援を受けていない人の希望について

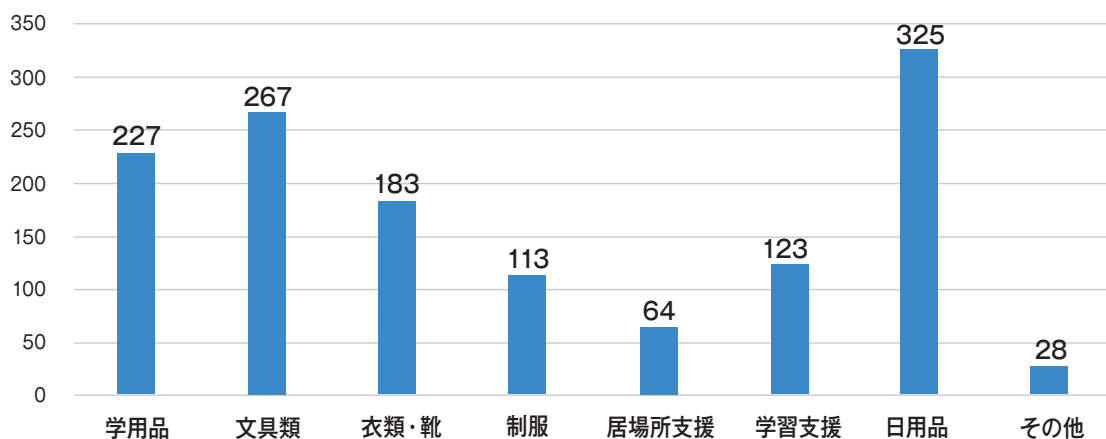


〔子ども応援プロジェクト利用者のアンケート〕

アンケート 食料支援以外に希望する支援について

食料支援以外に子育てのために必要な取り組みをについて自由記述方式で回答された内容を見ると、食料が不足している世帯はその他の日用品や、地域の居場所、学習の場が不足していることがうかがわれる。

食品以外の支援希望（回答数）



応募用紙（通信欄より）

◆ コロナによる家計収入大幅減により子供の教育費が本当にかかる時期なので毎月カツです。削るのは決まって食費なので子供のおやつになる物がなかなか買えず…育ち盛りの子供ばかりなので「たまには焼き肉やしゃぶしゃぶが食べたい」などと言われますが「そうだね～でもまた今度ね」とにしています。（11人家族）

◆ 初めてお世話になります。家計をどんなに切り詰めても収入より支出が多く、毎日子供達に食べさせるだけでも大変で、お米やお肉は買えない日々が続いています。何でも構いませんので、少しでも子供達のお腹の足しになる物があれば助かります。宜しくお願いします。（9人家族）

◆ コロナで仕事が少なく収入が少ないが家族が多いため食べるものが少なくて困ってるさつまいもキャベツが欲しいシーチキンや鯖などの缶詰が欲しい多く作れるものが欲しい（10人家族）

◆ コロナの影響でサービス業の夫の給料が手取り、約半分が2年近く続き、夏の賞与も3割減と告知されました。経済的体力が危機的になってきました。食べ盛りの子供にお腹いっぱい栄養のあるものを食べさせてやりたいですが、食費捻出も厳しい状況です。（5人家族）

◆ 1人親家庭ではなく、私達家族よりも大変な方が沢山いらっしゃるかもしれない…応募を躊躇しましたが、やはり子供達の事を考えると、このままでは、ダメだと助けて頂きたいと応募させて頂きました！沢山の食料を頂いた当日、お米がちょうどきれてしまい、どうしようかと悩んでいて、本当に嬉しかったです！助けて頂いた事、人の優しさ、思いやりの気持ち、有難いね、残さず食べようね、と子供達に伝えました！（8人家族）



資料集

- 企業のフードバンク活動についてのアンケート調査
- Facebookでの情報発信

企業のフードバンク活動についてのアンケート調査

認定特定非営利活動法人フードバンク信州

調査の概要

調査の目的

食品ロス削減と生活困窮者支援を目指すフードバンク活動について、食品関連企業の寄贈状況と参加意識を調査し、食料循環による支え合いの社会づくりを進めるシステム構築に役立てるため調査を実施した。

調査対象

県内の18商工会議所に加入する企業のうち食品関連企業

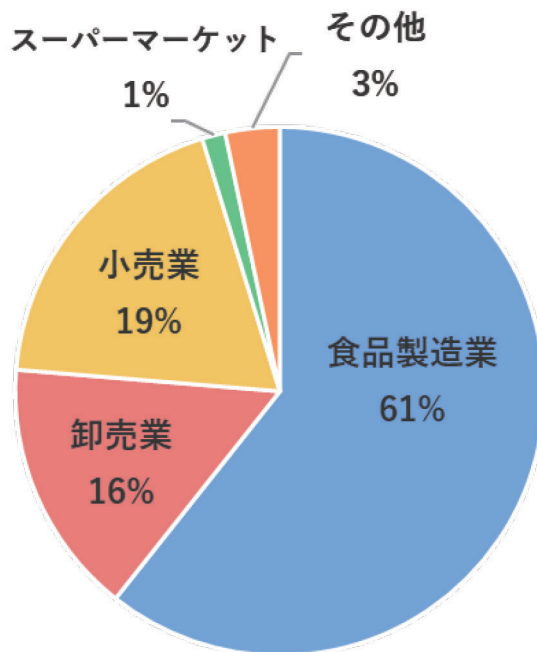
調査依頼数 812社

回答数 211社 (26%)

調査実施日

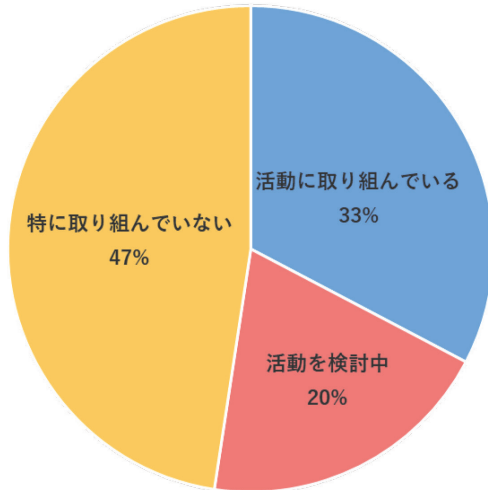
2021年10月

業種別回答割合



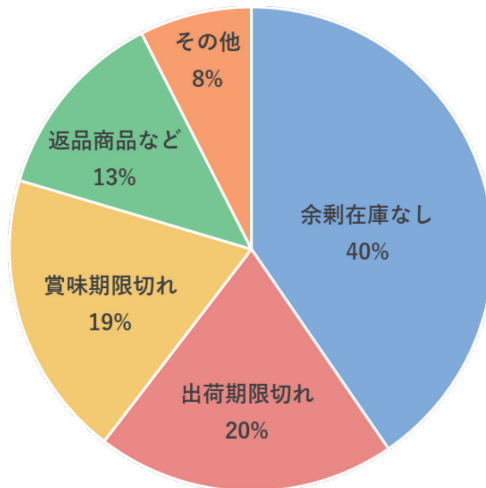
業種	回答数
食品製造業	128社
卸売業	33社
小売業	40社
スーパーマーケット	3社
その他	7社

●●●●● SDGsと社会貢献活動の取り組み ●●●●●



取り組み状況	回答数
活動に取り組んでいる	68社
活動を検討中	41社
特に取り組んでいない	99社

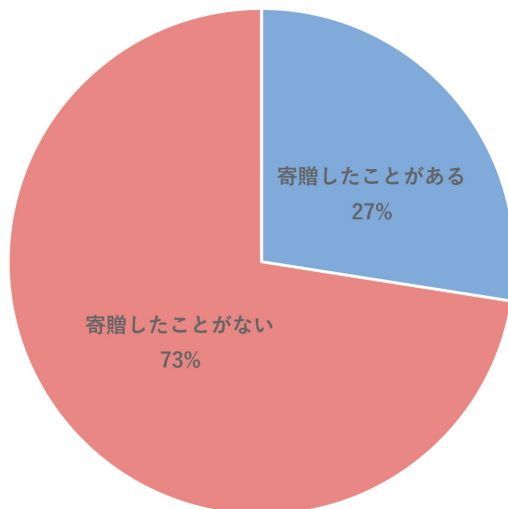
Q1 余剰在庫の発生理由



(複数回答可)

理由	回答数
余剰在庫なし	97件
出荷期限切れ	48件
賞味期限切れ	46件
返品商品など	31件
その他	18件

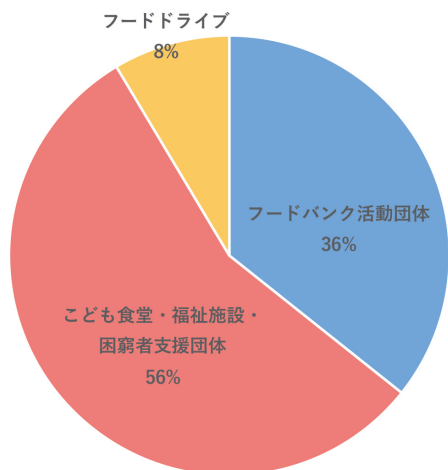
Q2 食料寄贈の有無



寄贈の有無	回答数
寄贈したことがある	58社
寄贈したことがない	153社

Q3 寄贈したことがある企業

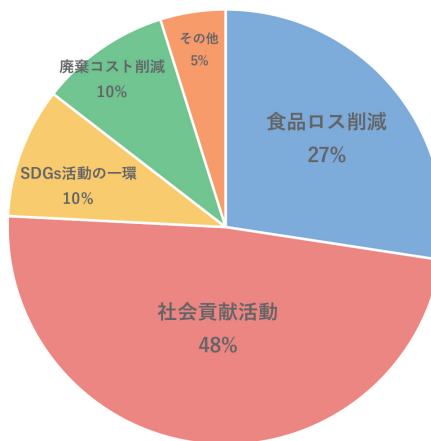
Q3-1 食料の寄贈先割合



(複数回答可)

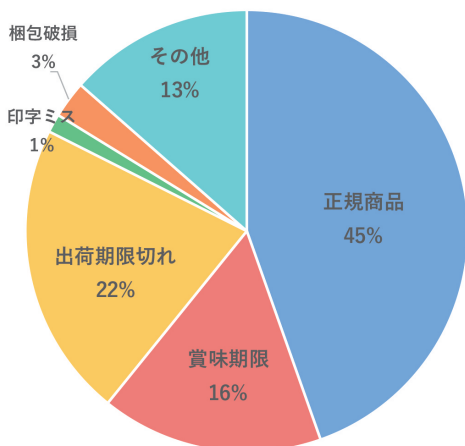
寄贈先	回答数
フードバンク活動団体	25件
子ども食堂・福祉施設・困窮者支援団体	39件
フードドライブ	6件

Q3-3 寄贈の目的



理由	回答数
食品ロス削減	17社
社会貢献活動	30社
SDGs活動の一環	6社
廃棄コスト削減	6社
その他	3社

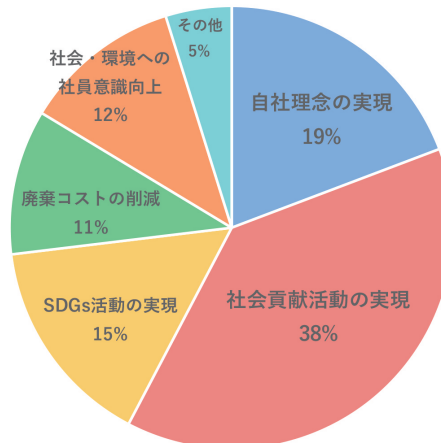
Q3-2 寄贈食料の種類



(複数回答可)

種類	回答数
正規商品	33件
賞味期限	12件
出荷期限切れ	16件
印字ミス	1件
梱包破損	2件
その他	10件

Q3-4 寄贈で得られた成果

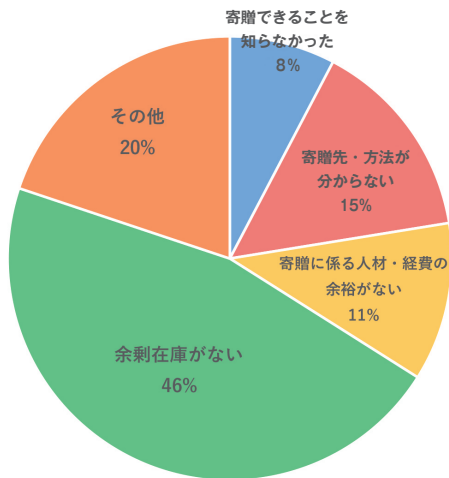


(複数回答可)

成果種類	回答数
社会貢献活動の実現	40社
自社理念の実現	20社
SDGs活動の実現	16社
廃棄コストの削減	11社
社会・環境への社員意識向上	12社
その他	5社

Q4 寄贈したことがない企業

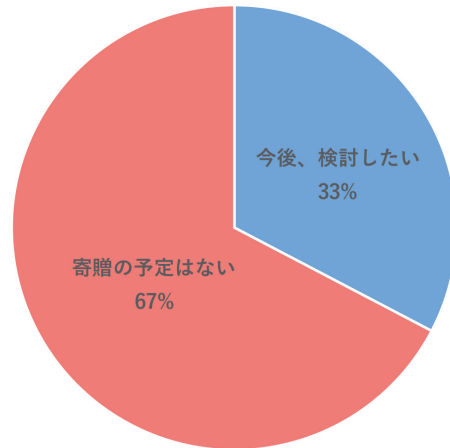
Q4-1 寄贈していない理由



(複数回答可)

理由	回答数
寄贈できることを知らなかった	12件
寄贈先・方法が分からない	23件
寄贈に係る人材・経費の余裕がない	18件
余剰在庫がない	72件
その他	31件

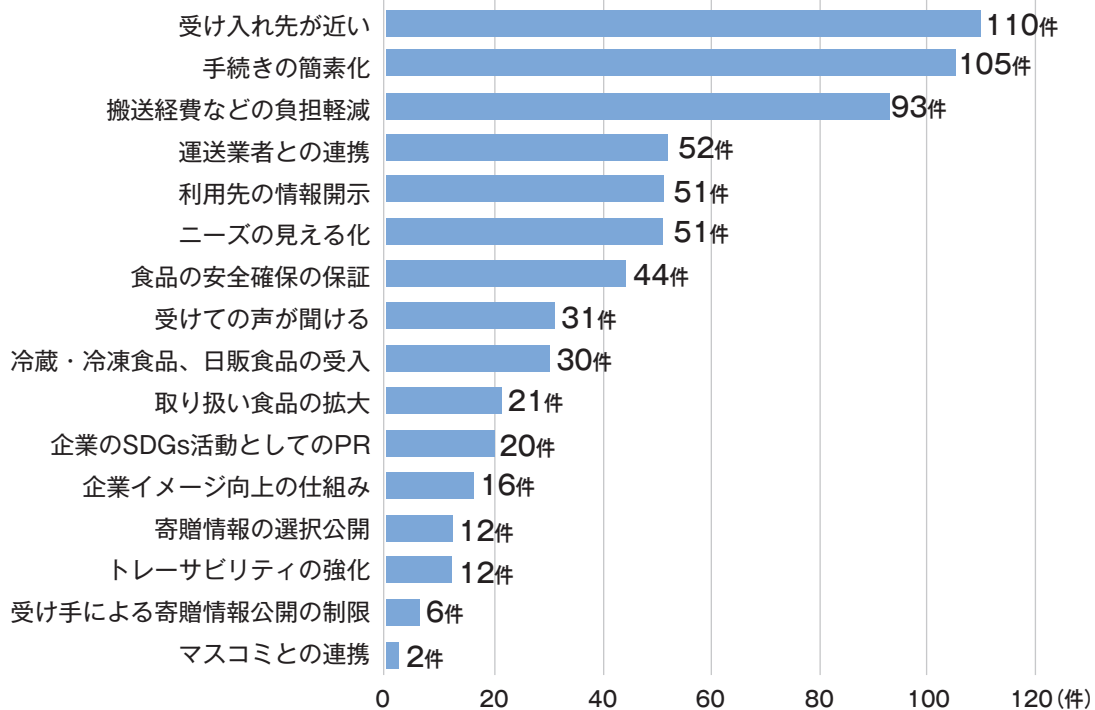
Q4-2 今後の寄贈について



(複数回答可)

種類	回答数
今後、検討したい	50社
寄贈の予定はない	103社

Q5 企業が食料を寄贈しやすくなるには



Facebookでの情報発信

フードバンク信州
作成者: 山岸 晃 ● 2022年6月10日

先月末29日、南長野運動公園にてabn長野朝日放送様、AC長野パルセイロ様との協働でフードドライブを開催いたしました。昨年の11月にも行われたこのフードドライブですが、今回は5月らしからぬ酷暑の中でありましたが、100名を超える参加者と、2 t 近くの食材が集まり、大変盛況なものとなりました。企画頂きました長野朝日放送様、ファンへの広報や会場をお貸しいただきましたAC長野パルセイロ様、本当にありがとうございました。受け取った食材は、下記の子ども応援プロジェクトを中心に、無駄にすることなくしっかりと活用していきたいと思っております！

先週末は第一回子ども応援プロジェクトの前半発送作業が完了しました。次の発送は6月の末になります。今回も多くの方にご応募頂いておりますが、応募用紙のご意見欄には、物価上昇による苦境が多くなく、苦戦しています。

長野県内の各ご家庭や企業・団体の皆様より多くの食材を寄贈していただいておりますが、それすら... **もっと見る**



フードバンク信州
作成者: 山岸 晃 ● 2022年7月15日

前回投稿より間が空いてしまって申し訳ありません。先月末第一回子ども応援プロジェクトの発送を終えて、先週末より第二回が始まっています。

第一回は約400件の応募があり、やはり物価の値上げが大きく響いている方が多くおられました。

主食のニーズはありますが、7月、8月頃はフードドライブなどで一番お米の寄贈が少ない期間になります。方々に声をかけさせていただき、集めていますがまだまだ不足している状態ですので、どうぞ皆様ご協力をよろしくお願いたします。... **もっと見る**



フードバンク信州
作成者: 山岸 晃 ● 2022年10月28日

今週は第3回子ども応援プロジェクトの発送日でした。今回の発送は、SBCさんや信毎さんが来ていただき、活動の取材をしていただきました。web上で動画が掲載されていまして、下のリンクでご紹介させていただきます。


最近では毎回ひと月で250件を易々と超える応募があり、生活が辛い方の多さに危機感を感じています。

10月になり、にわかにお米の寄贈が増えてまいりました。... **もっと見る**

SBC あ木 留 ● 05/0 ● 難局 長引く新型コロナに物価高 フードバンクに高まる期待

子ども応援プロジェクト
小学生がいる県内の家庭に食料を送付
おとしから開始

NEWSDIG.TBS.CO.JP
「フードバンク」ニーズや活動に変化...長引くコロナ禍や物価高の影響が... 長野 | SBC NEWS | 長野のニュース | SBC...



フードバンク信州
作成者: 山岸 晃 ● 2022年9月30日

毎月の末は子ども応援プロジェクトの発送作業で本当に忙しい日々となります。

今回、第3回子ども応援プロジェクトの9月分を発送しました。1枚目の写真は、10人世帯、2枚目は6人世帯の方々へそれぞれ贈らせていただいた中身です。

今回、9月だけで300件近くを送ったわけですが、300件ともなると、一回の発送重量は2 t を超えます。民間事業者として、毎月2 t を集めるのは本当に大変です。

おかげさまでご理解いただける企業の皆様・団体の皆様が増えてきて、様々なご寄贈をいただけるようになってきましたが、月の末にはほとんど物資がなくなり、ハラハラする日々です。... **もっと見る**



独立行政法人福祉医療機構 令和4年度社会福祉振興助成事業
—— 「食」を通じた循環型地域システムの構築 ——
報告書

- 発行日 ● ————— 2023年3月20日
発行人 ● ————— 佐藤 豊
企画執筆 ● ————— 美谷島 越子
発行元 ● ————— 認定特定非営利活動法人フードバンク信州
〒381-0034 長野市大字高田1029番地1
エンドウビル1F東
TEL 026-219-3215 FAX 026-219-3216
E-mail : info@foodbank-shinshu.org
<https://foodbank-shinshu.org/>
- デザイン ● ————— (株)イメージハウス・プロダクション
編集・印刷 ● ————— Creative EYES

※本書より転載・複製する場合には、認定特定非営利活動法人フードバンク信州の許可を得てください。

食でつながるありがとう♪



独立行政法人福祉医療機構 助成事業
—— 「食」を通じた循環型地域システムの構築 ——

令和4年度 報告書



認定特定非営利活動法人 **フードバンク信州**

〒381-0034 長野市大字高田1029番地1
エンドウビル1F東

TEL 026-219-3215

FAX 026-219-3216

E-mail : info@foodbank-shinshu.org

<https://foodbank-shinshu.org/>



山丹丹助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業